



稲荷山姫塚古墳の高い築造技術を物語る「板石積み」。初めてこの遺構を発見したのは3トレンチでした。板石積みが発見から全容の解明まで、調査の様子を御覧ください。



写真9 板石の出土

埴輪片が出土すること、石材の隙間が不規則であることを観察し、転落石を取り除きます。写真9は、板石が3石程度重なった状態を初めて確認したのですが、まだこの段階では板石が人為的に積まれたものか判断できませんでした。



写真10 板石積みの発見

トレンチの幅を広げました。板石の隣にも板石が続いており、この段階で初めて板石積みと判断しました。板石積みを覆うようにして斜めの板石が出土しており、上に積んでいた板石がずれ落ちたことが分かります。



写真11 取り除いた板石の下から再び板石が出土

写真10の板石を取り除くと、その下からさらに板石が出土しました。斜めに突き刺さった板石もあり、この部分も上から転落した石材と判断できました。



写真12 板石積みの姿が明らかに

転落石をすべて取り除くと、岩盤の上に板石を積んだ様子が観察できました。板石積みの下部は、岩盤の凹凸を調整するため大きさの違う石を置いていることが観察できます。



3か年の調査成果から、図5のような古墳のおおまかなイメージをつかむことができました。稲荷山姫塚古墳は、様々な石を使い分けること、高い所で約6.5mも石を積み上げること、古墳の外表を板石積みで飾ることなど、いたるところで積石塚という特殊な古墳を造るための高い技術をうかがうことができます。また、全長約54mという古墳の大きさは、同時期の石清尾山の古墳の中でも最大クラスの古墳となります。稲荷山姫塚古墳に埋葬された人物は、これだけの技術と規模の土木工事を行うことができる、高松平野でも有力な人物であったと考えられます。

以上のことから、稲荷山姫塚古墳は、当時の讃岐の社会を考える場合にかけがえのない価値を持つ古墳と言えるでしょう。

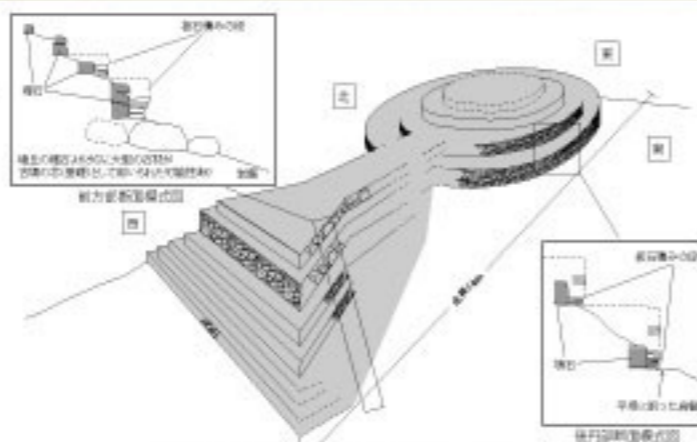


図5 稲荷山姫塚古墳のイメージ図



いなりやまひめづかこふん
—稲荷山姫塚古墳のなぞにせまる—



稲荷山姫塚古墳 3トレンチ検出 板石積み(北西から)

高松市の石清尾山塊(浄願寺山・峰山・稲荷山)には、約200基の古墳があります。その多くは土を盛って造った古墳ですが、そのうちの約20基が石で造られた「積石塚古墳(以下、積石塚)」という珍しい種類の古墳です。高松市では、稲荷山姫塚古墳を国指定の史跡「石清尾山古墳群」に追加するため、発掘調査を行いました。





古墳の立地

どこから見える？何が見える？

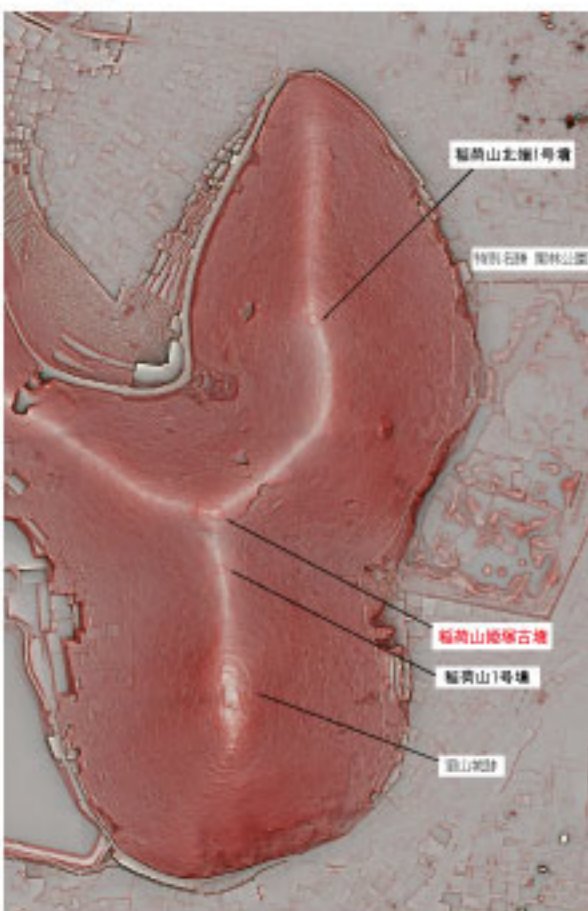


図1 稲荷山 赤色立体地図

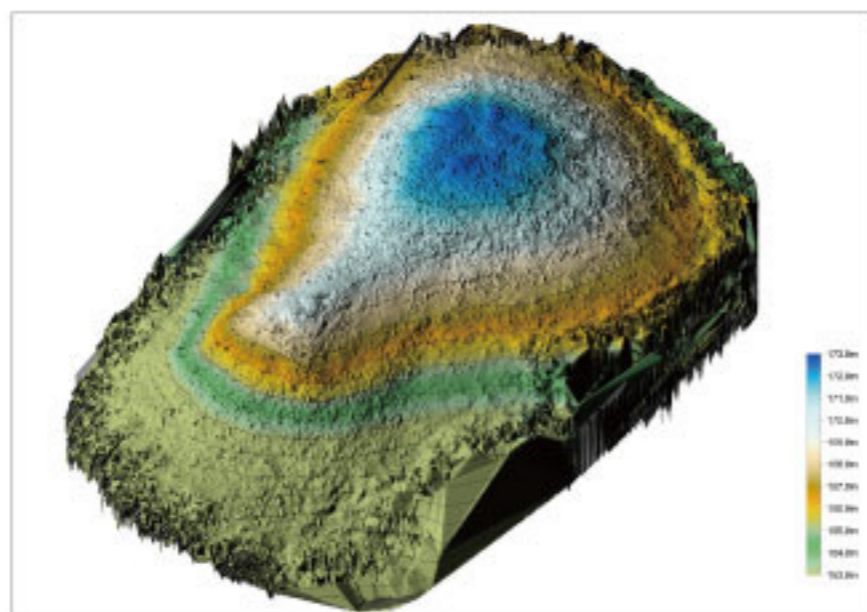


図2 古墳と周辺の地形

稲荷山姫塚古墳は、栗林公園の裏山にあたる稲荷山の尾根が分岐する場所に位置します(図1)。現在は古墳の周辺に大きな木々が生い茂っていますが、かつては前方部の墳頂に立つと北側の瀬戸内海を見渡すことができる場所でした。

古墳は、尾根の頂部に後円部、数m低い西側に前方部を築くことが、立地上の特徴と言えます(図2)。



古墳の形と大きさ

大きさと形が意味するものは？

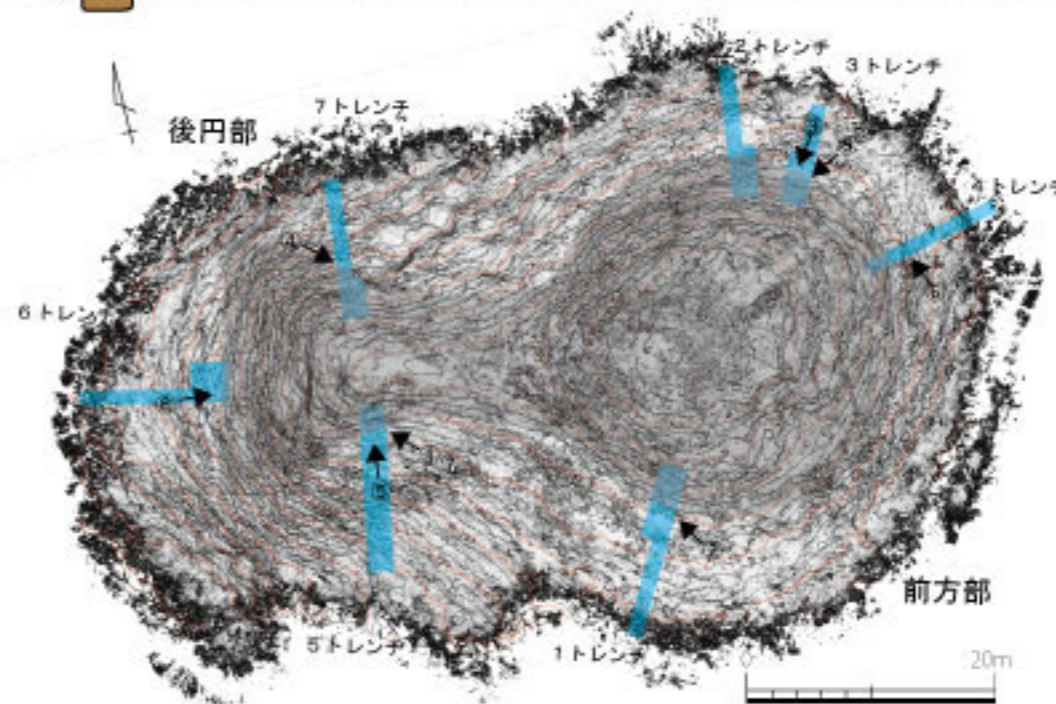


図3 稲荷山姫塚古墳 三次元レーザー測量図

発掘調査によって、カギ穴型の「前方後円墳」という形であることが分かりました(図3)。形の特徴は、前方部が三味線のパチのようになることです。この形は古い時期の古墳の特徴と言えます。

古墳の大きさは、発掘調査で古墳の最も外側の構造を確認した結果、全長が約54m、後円部の直径が約28mであることが分かりました。



写真1 1トレンチ 板石積み・塊石段



古墳の構造

石の使い方にもこだわりが？



写真2 1トレンチ 板石積み



写真3 3トレンチ 板石積み



写真4 7トレンチ 塊石段



写真5 5トレンチ 下部の板石積み

後円部では、まず岩盤の高さをそろえる調整をした後で、塊石による段(以下、塊石段)とその前面に板石を積み上げた垂直の壁(以下、板石積み)を造ります(写真2・3)。1トレンチでは、塊石段と板石積みを2単位確認しました。後円部の特徴は、岩盤の上に直接板石を積み上げることです。

前方部では、後円部とは異なり、まず岩盤上に大きい塊石を一部石垣状に積み(写真4)、その上に塊石段と板石積みを2単位、塊石段を2単位築きます(写真1・5)。墳丘の内部は調査していませんが、外から見えない部分には大きな石を積んでいるようです。



古墳の築造と崩壊

いつ造られ、いつ壊れ始めたのか？

出土遺物の多くが埴輪という古墳を飾る焼き物で、壺の破片や円筒状の形などがあります(図4)。直線の刻み文様のある特徴的な埴輪もあります(写真6)。この埴輪は、円筒埴輪という決まった形ができる前の地域色の強い埴輪で、この埴輪を参考に、約1700年前に造られた古墳であることが分かりました。

板石積みの近くでは、板石が崩れ落ちていましたが(写真7)、古墳の崩壊はいつから始まったのでしょうか。前方部では約1500年前の須恵器が出土し(写真8)、須恵器の下にも転落石がありました。築造の200年後には崩壊が始まっていたようです。



図4 参考資料 他の古墳から出土した埴輪
*引用文献は、表紙の都合で省略します。



写真6 4トレンチ 岩盤上から出土した埴輪



写真7 5トレンチ 転落した板石



写真8 6トレンチ 転落石間出土の須恵器